

テモテ第一 2 : 8-15

「男性と女性の敬虔な生き方」

2:8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。

2:9 同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、

2:10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行いを自分の飾りとしなさい。

2:11 女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。

2:12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。

2:13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。

2:14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。

2:15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによって救われます。

はじめに

パウロはまず偽りの教えにテモテの注意を向け、祈りと宣教をとおして福音のメッセージに改めて焦点を絞るようにと勧めました。そして今度は、敬虔な行いについてテモテに教えます。これは、男性と女性の敬虔な行いについてです。

後ほど、パウロは長老や執事について教えますが、ここでは教会内で起こった女性に関する具体的な議論に言及しています。

それは、地域教会において、女性が教えを施す権威的立場に立つことを許すべきかどうかという疑問です。

パウロは、男性と女性が違った造られ方をしたと主張しますが、これは、敬虔な生き方を奨励するという背景のもとに語られた内容です。

10月21日には、聖書が女性について何と教えているかについての主題説教を予定しています。ですので、今日のところは、この個所の背景に限定してお話します。

まず、2章8節から、男性の敬虔な行いについて見ていきましょう。その後、2章9-15節から、女性の敬虔な行いについてお話します。

今日は短い個所の中に、私たちに役立つ内容がたくさん含まれています。

今日の個所の学びに入る前に、とても大切なことをお伝えしておきます。

テモテ第一の中で、神の創造の順序に関する疑問が浮上する場面がふたつあります。これらの状況の裏には、ほぼ間違いなく偽りの教えがあったと考えられます。

4章3節では、結婚や食物に関連して、神の創造におけるすばらしさに疑問を呈する動きがあったことがわかります。

また、今日の個所では、パウロは人間の墮落前にさかのぼって神がもともと創造された姿を指摘します。

これは非常に重要です。というのも、これはイエスがなされたことだからです。これについては、10月21日にさらに詳しくお話します。

これに注目していただきたい理由のひとつは、現代における多くの偽りの教えも、創世記を疑問視するからです。

これは、神のみことばの権威を損なうだけでなく、私たちが伝え教える福音そのものに疑問を投げかけることだからです。

私たちクリスチャンにとって、創世記 1-12 章は非常に大切です。福音の教えとともに、これを守り教えなくてはなりません。

そういうわけで、私は伝道用の聖書のまなびのテキストで、創世記も含むものを常にお勧めするのです。

私のビジョンは、来年、A4 サイズのファイルを日英両語で作成することです。これを使えば、日本語が流暢でないクリスチャンでも、興味を持ってくれる人に対して、創世記から新約聖書へと

聖書の内容を、福音を理解するのに必要な部分だけに集約してひととおり説明できるようなものです。

すでに、信徒向けの洗礼と弟子訓練については日英両語のものがあります。

来年の夏までには、英語が母国語で日本語は少ししか話せないという人でも、日本人に伝道し、聖霊の働きによって、創世記から始めて、最終的には弟子訓練の親役になるまでのプロセスに関われるようにしたいと願っています。

これは私がこの3年間進めてきた大切な計画です。

イエスを証する際、働いてくださるのは聖霊です。けれども、私たちは生きている限り、またチャンスが与えられる限り、精いっぱいのことをしなくてはなりません。

では、今日の個所の学びに入りましょう。

1. 男性における敬虔な行い (8 節)

テモテ第一 2 : 8

2:8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。

まず、パウロが男性にこのように勧める背景を理解する必要があります。

パウロは、エペソの教会の男性に祈るよう促しています。

なぜここでそうしているのでしょうか。

背景には、教会で偽りの教えが起り、それが議論や激しい口論を引き起こしたことがあります。(1 : 4、6 : 3-5)

この手紙が書かれた歴史的背景の中で、たいていの場合、論争は怒りへと発展しました。

人々はお互いに腹を立て、憤慨していました。

ある人たちがあることを強く主張し、他の人がその主張に強く抵抗したなら、たいてい両者が腹を立てます。これは、現代社会でも同じです。

パウロは、もめごとをこのような結果に終わらせるのではなく、むしろともに祈ることで解決を求めるべきだと言っているのです。

男性の敬虔さのしるしは、神に手を上げて祈る姿であるべきです。問題が何であれ、激しい口論は敬虔さのあらわれではありません。

エペソの教会の男性たちが体の強さや力ではなく祈りに長けていることで知られるようになることをパウロは願っています。

このようなアドバイスは、当時の文化における考えとは対照的でした。

意見の対立した男性たちがともに祈るとき、聖霊と神のみことばがその問題に対する解決策を示してくださいます。

そうすれば、その対立やもめごとは、男性たちが各々霊的に成長するきっかけとなり得ます。

OIC の男性に対する適用

男性の間で争いになるような問題は今のところ把握していませんが、OIC の男性は祈りや話し合いのためにもっと時間をともにする必要があります。

なかなかむずかしいとは思いますが、数か月前に箕面に行ったときのように、ともに時間を過ごす、すばらしい祈りの時間を持てます。

2. 女性における敬虔な行い (9-15 節)

女性については、来週詳しく学びますので、今日の個所に直接関連した問題についてのみお話しします。

この問題の背景が重要です。

5 : 13 には、ある女性たちが話すべきでないことを話しているとあります。

テモテ第一 5:13 そのうえ、怠けて、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話してはいけないことまで話します。

さらに、5:15には、ある女性たちがサタンに欺かれたとあります。

テモテ第一 5:15 というのは、すでに、道を踏みはずし、サタンのあとについて行った者があるからです。

サタンは、常に神のみことばを損なおうとします。クリスチャンが現代の文化に合わせて聖書のとらえ方を変えたり正当性に疑問を呈したりするとき、そこにサタンが明らかにかかわっています。

とくに、女性の働きに関わる内容でそれが顕著にあらわれます。

教会における女性の指導的役割という議論は、長年続いてきました。

ですから、この間違った教えはクリスチャンの感情にも思考にも深く根付いています。

このテーマについてクリスチャン女性にはっきりと教えを伝えると、気分を害したり怒ったりされることがよくあります。私には神のみことばの明確な教えだと思えることが、受け入れられないようです。

来週、聖書全体からその全体像について学ぶとき、全員が真理を学べるように願っています。今日の個所では、教会の女性たちの行いに偽りの教えが影響を及ぼすことをパウロは懸念しています。

クリスチャンが文化の中で特色のある存在でなくなってしまうのではないかと心配しています。

まずパウロは、女性の衣服について語ります。

これはおもに、礼拝に行くときの女性の服装についてです。

デートでロマンチックな夕食に出かけるときの服装についてではありません。

それは、まったく違う話です。（箴言 31:22）

原語のギリシャ語を調べると、その本来の意味にたどり着きます。

「身を飾る」と訳されたギリシャ語の単語は「コスメオ」で、化粧を意味する英語の「コスメティック」という単語の語源です。この単語は、身に付けたか整えるという意味です。

女性はどのような服装で礼拝に参加するか考慮すべきです。

「つつましい身なり」と訳された単語は、ギリシャ語の名詞「コスモス」です。

これは、ただ何かを着るというだけでなく、その人自身をどのように見せるかという全体の印象に関わります。

女性は、聖なる神を礼拝するのにふさわしい服装で礼拝に参加すべきです。

おそらく、「控えめな」服装というのが現代でぴったりくる表現でしょう。

パウロは、控えめな服装という全体のイメージから、はでな髪型、金や真珠、高価な衣服といった具体例に言及します。

当時の文化では、女性は凝った髪型をして、金や真珠などの宝石を髪飾りとししました。

現代風に言えば、ひらひらの飾り帽子が相当するかもしれません。

欧米では、結婚式などに女性が付けるものです。

日本人女性なら、着物を着たときにつける大きな髪飾りに相当するでしょうか。

当時の文化では、宝石の髪飾りをつけることは富の象徴でした。

まとめると、女性は礼拝に来るときの服装に注意する必要があるということです。

高価なものは身に付けず、デートやパーティに行くような服装はしないようにしましょう。

大切なのは、心の中です。

女性は、自分の身に付けるものについて、どういう動機や目的でそれを身に付けるのかを考えるべきです。

人から注目してもらうため、富や美をひけらかすため、異性へのアピールのため、などではないかよく考えましょう。

OIC のウェブサイトには、服装は自由ですと書いてありますが、これはノンクリスチャンの方に向けられた言葉です。

クリスチャンの女性は、聖なる神を礼拝するのにふさわしい服装をする必要があります。

これで、クリスチャン女性が礼拝に行くときの服装について、はっきりおわかりいただけたことを願います。

パウロは次に、当時の文化と相容れないことを語ります。

「女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。」と語ります。(11節)

当時、女性には教えを受ける場所など皆無に等しい状態でした。

これはユダヤ教も例外ではありません。

けれども、パウロは女性たちに神のみことばを学んでほしいと願いました。

ここでの焦点は、女性が神のみことばに従うことです。

女性たちが神のみことばを教えてもらえなければ、どのようにして神のみことばに従えるでしょう。

ユダヤ教の会堂シナゴグでは、女性たちはバルコニーでおしゃべりをしていました。

私は16年ほど前に、ロシアのサンクトペテルブルクにあるユダヤ教のシナゴグを訪れました。そこでは、男性たちがトーラーと呼ばれるモーセ五書を学ぶ間、女性たちはバルコニーでずっとおしゃべりをしていました。

今でも同じことが起こっているのです。

さて、ここでパウロが語った、さらに受け入れがたい内容に話を進めましょう。

パウロは、女性が教えたり男性を支配したりするべきでないと言います。

そして、その根拠として創世記3章を挙げます。

これはすべて、礼拝での教えという文脈です。

まず、パウロの言葉をそのまま見ましょう。

彼は、「女が教えたり…することを許しません。」と言います。このとき、使徒の権威のもとに語っているので、これは個人の見解ではありません。(1:1)

次に、パウロはこれを創造の型にあてはめていることから、これが文化や時代を超えて適用されるべきであると考えられます。

では、この教えと、特定の状況で教える役割を果たせる賜物を持つ女性がいることをパウロが認めている個所との整合性は取れるのでしょうか。

また、5:14を読むと、特定の状況では女性が権威を行使すべきであるとパウロは認めています。

では、12節でパウロはいったい何を語っているのでしょうか。

それは、教会の指導的役割を女性が果たすべきではないということです。

これは、100%明らかです。

つまり、女性は教会の長老など、男性に対して権威のある立場に立てないということです。

これについては、来週の主題説教にてあらゆる見解を取り上げます。

パウロは、墮落する前に男と女が造られた最初の創造までさかのぼって、自らの教えを説明付けます。

パウロは、コリント第一11:1-16でも同様のことをしています。

コリント第一 11 : 1-16

11:1 私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。 11:2 さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私あなたがたに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているのです、私はあなたがたをほめたいと思います。 11:3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。 11:4 男が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていたら、自分の頭をはずかしめることになります。 11:5 しかし、女が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭をはずかしめることになります。それは髪をそっているのと全く同じことだからです。 11:6 女がかぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまいなさい。髪を切り、頭をそることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。 11:7 男はかぶり物を着けるべきではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現れだからです。女は男の栄光の現れです。 11:8 なぜなら、男は女をもとにして造られたのではなくて、女が男をもとにして造られたのであり、 11:9 また、男は女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。 11:10 ですから、女

は頭に権威のしるしをかぶるべきです。それも御使いたちのためにです。 **11:11** とはいえ、主にあっては、女は男を離れてあるものではなく、男も女を離れてあるものではありません。 **11:12** 女が男をもとにして造られたように、同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から発しています。 **11:13** あなたがたは自分自身で判断しなさい。女が頭に何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。 **11:14** 自然自体が、あなたがたにこう教えていないのでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは男として恥ずかしいことであり、 **11:15** 女が長い髪をしていたら、それは女の光栄であるということです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。 **11:16** たとい、このことに異議を唱えたがる人がいても、私たちにはそのような習慣はないし、神の諸教会にもありません。

この両方の個所でパウロの主張は明らかです。

彼は、自らの主張の根拠を創造に置いています。そうすることで、エペソの教会とその人々の問題だけに限らずすべての人にあてはまることをわかってもらうためです。そこに、男性と女性それぞれに神がもともと意図された目的が示されているからです。

パウロの主張は、アダムがエバよりも前に造られたというものです。 (**13 節**)

そして、人が墮落したのはエバがだまされて罪を犯したときだと語ります。

エバがアダムを誤った方へ導いてしまいました。 (**2 : 14**)

パウロは、女性のほうが男性よりもだまされやすいと言っているのではありません。

人類の墮落がどのように起こったかを振り返り、男性のリーダーシップが女性によってくつがえされたときに何が起こったかを示しているのです。

彼は自身の教えを神の創造の順序に基づけました。

来週、神の教えからの全体像を見れば、パウロがここで言っていることに私たちも納得すると私は確信しています。

今日のところは、時間の関係で話を進めます。

15 節はもうひとつ受け入れがたい内容です。パウロは何が言いたいのでしょうか。

まず解決しなければならないのは、それぞれの訳で使われている単語です。

ここには、「女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによって救われます。」と記されています。

ここで使われているギリシャ語の単語は「ソゾ」です。これは、救いを意味する場合がありますが、守られる、解放される、助け出される、という意味で使われることもあります。

パウロは、イエス・キリストを信じる信仰をとおして恵みによって救われるという救いのメッセージに対抗することは決してしませんから、この個所が永遠の救いとは無関係であると確信できます。

では、どういう意味でしょう。

イエス・キリストを示していると指摘する聖書注解者もいます。イエス・キリストは、人類を救うために女から生まれたからです。しかし、テモテ第一の文脈におけるこの個所からそう読み取るのは無理があります。

パウロがここで言おうとしているのは、時代を超えて、女性が神に喜ばれる敬虔な生き方を実践する場所は通常、家庭内であるということです。つまり、出産や子育てを指します。

これはもちろん、イエスを信じ、愛ときよさと自制をもって生きるということが大前提です。この解釈を支持するためには、テモテ第一の他の個所も読む必要があります。

まず、**5 : 9-10** では、良い働きと子育てとが直接結びつけられています。そして、**5 : 14-15** でも、これに触れています。

テモテ第一 5 : 14-15

5:14 ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子どもを産み、家庭を治め、反対者にそしる機会を与えないことです。 **5:15** というのは、すでに、道を踏みはずし、サタンのあとについて行った者があるからです。

パウロは、出産と子育てという女性特有の働きをたたえています。 (**2:15, 5:10, 5:14**)

これらの女性たちは、男性にはできないこと、女性にしかできないことをしたとたたえられているわけです。

この解釈は、テモテ第一の文脈に無理なく当てはまります。

ジョン・マッカーサーは、自身の注解書の中でこの個所について次のように語ります。

「出産の痛みは、最初の女の罪に対する罰であるが、出産の喜びと特権は、その罪の汚名から女性を解放する。」

また、男を罪に引き込んだ汚名も、信仰による子育てをもって相殺されるとも言っています。そうは言っても、すべての人が結婚や子育てに召されているわけではありません。

ただここで覚えておいていただきたいのは、パウロはこの件にかかわる偽りの教えを正そうとしていたことです。

偽りの教師たちは、結婚を禁じたりしていたからです。(4:3)

独身女性については、来週の主題説教でお話します。

結論

パウロは、女性が学ぶことを積極的に支援しています。

また、家庭生活や女性が育児における責任を担うことも支持しています。

一方、パウロが支持できないと感じていることは、女性が教会家族の中で權威を持って教える立場に立つことです。

今後、私たち OIC も神に助けをいただき、この教えを実践していきましょう。